

# 報 会 うでまくり

一般社団法人  
福島県女性経営者プラザ

## もつともつと勉強しよう！

福島県女性経営者プラザ

会長 三田 公美子



福島第一原発放射能事故の後始末もつかないうちに、次々と再稼働に動いている状況を見て、何でかな？さっぱり分からない私です。沖縄の基地問題も、分からないことの一つです。日本を戦争のできるふうの国にするといつて、安保法とか集団自衛権とか着々と手を打っているのなら、沖縄の民意をよくきいて、米軍に帰ってもらえばいいのではないのでしょうか。この際、

日米地位協定なんかも一切ご破算にして、日本をほんとの独立国にするなら死ぬほどいやな軍備も目をつむる覚悟です。(どうせけっこう進んでいるし) 自民党とか民進党のどちらがいいかではなく、いまは日本という国が生きているのか滅びるのか、まさに瀬戸際に来ていると思います。グローバル社会はそれをあばき出しました。

### ●今さらながらの私の反省

そんなむづかしいことはどうでもいいやと思つて、自分の仕事、自分の会社、自分の地域、自分の暮らしにかまけて、けっこう真面目に本気で生きてきました。お客さまや社員のことを思

### ◆FJPの目的◆

- ①女性経営者としての資質向上
- ②次の女性たちのための風土づくり
- ③共同事業の開発
- ④地域・社会への貢献

う時、三万石のおかみさんの口ぐせ、「正直に、親切に」を、私も人生の信条として、守り抜いてきたつもりです。そのこと自体は私の必然でしたから何の後悔も迷いもありません。ただ、私の一隅が日本の一隅にはなりえなかった、(ほとんどの人がそうですが)それが残念でなりません。

何でこういうことになったのだろうか。考えてみると、私は私で手いっぱい、政治や国際情勢、社会科学などは誰かがきちんとやってくれるものと思つていたのですね。今になってみると、原発の安全管理もそうですが、誰もやってくれていなかったのです。

これからの女性経営者は、会社経営をしつかりやるのももちろん、社会経営にも一歩踏み出して、がんがん意見を言いましょ。そうしないと、日本は滅ぶと思います。

どうかみなさん、日本を守り抜いてください。

### ●うでまくりとは

古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのがあつた。天気の良い朝にバラバラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない…という意味。FJP、女の腕まくりの真価はこれから！



FJP設立20周年記念特別講演

ホリエモン語る「ゼロ」から

講師・SNS株式会社フアウンダー 堀江貴文氏  
平成27年11月26日(木) 18時〜 郡山文化センター



▲2000人収容の会場は3階までほぼ満席に…



▲何よりも行動。FJPのように行動することが大切だ。——勇気づけられました。



▲佐藤和江副会長が花束で感謝



▲三田会長の挨拶もなかなか面白かったです。

今は福島に対するマイナスのイメージが大きいですが、すぐに皆忘れるだろうから、心配しすぎることはない。有名な県になったが、何もしなければ忘れられる。だから、今福島は前に進むチャンスである。ピンチはチャンスだから。過去より今からの話をしよう。何をするかだから、行動をしよう、今から。東京のマネをする必要はない。福島という県名は残っているの、地元の良さを使得、世界の人を集めることが

●会場からの質問に対する堀江さんの回答から  
・私は嫌われている、という質問に対して——嫌われているって言っても、自分が思っているほど嫌われてはいない。人はそんなに自分のことを気にし

ていないから。時に、嫌われる勇氣も必要だ。  
・堀江さんの会社に就職したいという高校生の質問に対して——人と違うことをアピールするとい。例えば、「こんな企画を実行しました」と示すことが大事だ。  
・学歴をどう思いますかという質問に対して——どうも思いません！学歴は希少価値をアピールするもの。一昔前なら、「大卒」というだけで価値があったが、大学全入時代と言われている今はそうではない。銀座のあるお寿司屋さんには、女性すし職人がいる。すし職人の世界で女性は珍しく、希少価値がある。希少価値をアピールする方法は、今や学歴だけではない。

前夜からの雪は幸いにも雨に変わり、約2000名が入る会場はほぼ満席となりました。豊富な事例でわかりやすい講演という点もあり、参加者の評判も上々。楽しい講演会となりました。

●コラム・福島の自慢!

福島県立美術館

交流・広報委員会 伊東 英子

広々とした銀杏並木の先、信夫山を借景に悠然とした佇まいを見せる福島県立美術館。隣の県立図書館と共に、福島の大切な文化的拠点ですが、東日本震災ではかなりの大きな被害を受けました。

その時、手を差し伸べてくれたのが、入館者15万人を記録した『若冲が来てくれた』展のプライスさん御夫妻でした。福島の子ども達にと想いがこもった寄付を元に、同館は子ども達の絵画的感性を育てる補助教材「ART CUBE」を開発し、この教材を使って、鑑賞会やワークショップを行っています。

「ここからひとりでも未来のピカソが出てきてくれれば…」そんな夢のある想いが、福島の未来を育てます。

設備改修で閉館中だった同館でしたが、今年4月から開催の『フェルメールとレンブラント』展で再オープンとなりました。

子ども達の才能が色鮮やかに花開く日が、楽しみです。



10月例会 10月20日(火)

# 講演会

12時～15時 / 二本松市花季

テーマ「知られざる安積良斎」

講師 安藤智重氏

(安積国造神社第64代宮司)



「安積良斎」は、安積国造神社(郡山市)第55代宮司の安藤親重の三男として生まれた江戸後期の儒者である。佐藤一斎・林述斎に学び、私塾見山楼を開き、詩文家としても名を得た。

■安積良斎門人帳——2280余名の門人がいた私塾。「明治の新天地を形作った人材の多くは良斎が養成した者である」(市島春城)。

■前島密と岩崎弥太郎——二人は協力して、日本郵政の仕組みを築いた。海運発展のためにも尽力し、前島の自伝には、岩崎に対して大きな信頼を寄せていたことが書かれている。二人が

どこで出会ったのか長い間謎とされていたが、実は良斎の私塾であったことがわかった。大久保利通も前島を介して岩崎を信頼していたという記述もあり、時代を担う人材が良斎と繋がっていた。吉田松陰も教え子の一人。ペリーが帰る際、密航しようとして失敗(下田踏海事件)し、当時の日本は鎖国で自首をしたものの、本来なら直ちに死罪となる松陰を、良斎が老中阿部正弘に刑の減免を願い出て、すぐの死罪は免れたといわれている。

■思想——身分が上の者であっても下の者を馬鹿にしてはいけない、下の者であっても上の者におべっかを使っ  
てはいけない。運命のせい、他人のせいにはしない。儒学は論理、陽明学は直感的。時勢の動きを察知し、タイミン



▲定例会は協議事項がたくさん、皆真剣です。

グを考えて文章を発し、すさまじい勢いを得て天下を善導せよ、商売はみんなの利益のため、我田引水はダメ。

■対外問題——良斎「洋外紀略」を著す。非戦論。戦争回避。戦争が起きた場合の食料の輸送などについて論じている。

■詩文——「烈婦伝」など。たいへん勉強になりました。



▲定例会の楽しみ「花季」の新そばを堪能しました。

## ◆会員に聞く!

——気ままだにトーク

2015年2月9日(火)

茶寮おりおり(福島市)



新城希子さん(左)と野尻真佐子さん

野尻さん(本宮市・株ノジリ常務取締役)が嫁いだ先は、厳しい義父、商売上手の義母が営むステーキショナリー・文具の老舗企業。長男の主人を支え、時代の変化に向き合ってきた。FJPは皆さん前向きで刺激的です。

新城さん(会津若松市・末廣酒造(株)専務取締役)は偶然が重なって嫁ぐことに。「会津地域全体の向上に貢献」という老舗の造り酒屋の重臣、厳しい義母に仕え嫁業の大変さを学んだ。FJPでも新たな出会いを大切にしたい。

コーディネーター 三田公美子会長

11月特別例会 11月7日(土)～8日(日)

# 被災地視察研究会&交流会

## 東京産業人クラブ女性部会来福

FJJP会員22名・東京からの参加者21名、総勢43名で、浜通りを中心に被災地を視察しました。郡山駅から専用バスで、いわき小名浜を経由で、広野町から楢葉町、富岡町へ。

車中では、元富岡高校の校長先生で、現在「富岡町3・11を語る会」代表の青木淑子さんから、北上するように入ってきた復興の現状をつぶさにご報告いただきました。

再生させていく姿を記憶に残したいとの思いで、青木さんがまとめた



▲震災の様子を語る青木さん



冊子「伝えたい」▶



冊子「伝えたい」は、記憶をつなぐ貴重な資料です。二日間にわたり、東京の皆さんと共に見る、共に考える時間を共有できたことは大変有意義でした。

(東京の皆さんからの感想)  
● 青木さんのお話や現地の生の声は、正直衝撃的。  
● ずっと訪問したいと思っていたので嬉しい。でも正直辛い。



▲昼食交流会は小名浜「一平」で。「震災前は歩くウニが評判でした。一日も早く福島産の魚介類でもてなすのが夢」と、女将でFJPOBの長谷川雅子さん(中央)。



● 荒れた地域に、胸が痛む。  
● 自分の家に立ち入れないとは何と残酷なことか。  
● 見ることが一番価値がある。見て考える貴重な時間でした。  
● 見えない放射線に不安を抱いていましたが、考えをあらためたい。



● 未来にやれることが沢山ある。  
● 女性の元気があれば何でもできる。  
● 地元のストレスを解消する術が欲しい。力になりたい。  
● 「Amazing Grace」や「ふるさと」を一緒に歌って幸せでした。

悲しい現実。まちにいるのは除染作業員と警備の人だけ。▶



▲親睦を深めた交流会一岳温泉「陽日の郷あづま館」

▶車中で「ふるさと」を合唱



# 第2回女子学生懸賞作文発表会及び表彰式

2016.3.9  
ウエディングエルティ



■2015年8月の各委員会活動において、第2回女子学生懸賞作文募集と記念公開講演会を成功させるための検討がなされた。9月にポスター、チラシ配布など具体的な募集活動を開始した結果、約35編の応募があった。その中から上位15編をFJPの選定委員で選出し、2月の公開審査会で各賞受賞者を決定した。審査員は三田会長はじめ左記の4名。

・審査委員長：千葉悦子氏  
(福島大学行政政策部教授、福島県男女共生センター館長)

・審査委員……高橋雅行氏  
(福島民報社代表取締役)

・審査委員……内池 浩氏  
(福島県中小企業団体中央会会長)

・審査委員……佐川八重子氏  
(桜ゴルフ代表取締役、東京産業人クラブ女性部会長)

表彰式は、3月9日福島市ウエディングエルティに於いて開催され、厳粛かつ和やかな雰囲気の中で盛大に執り行われました。

■金賞は富永桃子さんの「女性による女性のための民間救急」―「自分には未来があるという自信をいただきました」と受賞の喜びを語った。ベトナムからの留学生で銀賞に輝いたゲン・ヴェット・フオンさんの「福島と私・仕事と女

性・日本とベトナムを繋ぐ夢の懸け橋」は、同時にさくら賞(審査員の桜ゴルフ佐川社長提供)も受賞し、「日本が大好き。日本の母をはじめ皆さんに恩返しをしたい」と挨拶。銀賞受賞の鈴木あかねさんの「女性が輝ける社会とは」は、女性整備士による会社経営を描いたもの。言語聴覚士として「言葉と人をつなぐリハビリ施設を作る」を書いた伊藤萌さんは奨励賞と三井生命賞を受賞。

■全体講評で千葉審査委員長は「現在の学びをもとに夢を描いている作品が多かった。夢は現在と離れたところで描くものと思っていたが、学びで得られる資格や学習知識を活かした仕事を夢としている。ロードマップを具体的に描いた作品は少ないが、実現できるという手堅いものを感じる」と第2回の特徴を指摘された。また、三田会長からは、「女性が女性を助ける仕組みが大事、10回目を迎えられるよう期待している」とFJPの役割と意思を述べた。

■作文募集はFJPとしても画期的な試みでしたが、それによって会員も多くのことに気づかされたのではないのでしょうか。この取り組みが、これからの社会で女性が輝くための第一歩になればと祈念いたします。第3回が楽しみです。



▲ゲンさんはさくら賞も受賞(左)



▲金賞作品を朗読する富永さん(中央)



▲プレゼンターの三田会長(左)

# 各委員会活動

● **総務委員会** — 委員長・瀬戸孝子

今年はずっと皆さんの事業やイベントがありました。4月の総会から始まり東京の移動例会では東京産業人クラブ女性部会と交流、また11月には福島において頂き交流を深めました。11月26日には今年度最大のイベントである堀江貴文氏による20周年記念講演会が開催されました。全ての事業が盛会であったのも会員の皆様の

## 1月定例会＆新年会

2016年1月28～29日  
二本松市岳温泉「陽日の郷あづま館」



▲いつものながら、紺野さんの絶妙な司会



▲恒例、佐賀裕子会員の祝舞



「出席者が少ないから楽しめないというわけではない!」という三田会長の力強い挨拶でスタート。恒例の委員会対抗かくし芸大会も大盛り上がり。実に楽しいひと時でした。

注:FJP 会員は女性のみです。



総務委員会、事業委員会、交流・広報委員会それぞれが工夫と練習を積み重ね、半端じゃないところがFJPの強みなのです。

(写真はほんの一部です)

● **事業委員会** — 担当副会長・佐藤和江

毎月の定例会、東京移動例会(6月10日～11日)、東京産業人クラブ女性部会来福被災地視察研究会(11月7日～8日)、20周年記念公開講演会、女性学生作文募集活動等、総務委員会

おかげと感謝致しております。新年度は役員改選もあり総務委員会もメンバーが変わります。会のスムーズな運営の為、会員の皆様には遅延のない会費納入と出欠の返信をお願いいたします。一年間会員の皆様にはいろいろとご協力頂きありがとうございます。

● **交流広報委員会** — 委員長・会田和子

交流・広報委員会と協力して実施することも多く、大変勉強になりました。新年度も宜しくご協力お願いします。  
・会員入会促進：福島市の斉藤可子さん(峰亀経営)が6月入会。会員数38名(うち理事15名)。新年度はさらに3名が入会予定で、会員数は40名を超えます。新年度も50人を目標にさらに入会促進を拡充します。  
・うでまくり発行：第13号(2015年9月20日)、第14号(2016年3月31日)

### ● 編集後記 ●

世界で初めての女性国家元首は、アイスランドのヴィグディス元大統領。1980年から16年統治した優れた女性リーダーをもつこの小さな国は、フレワーク(柔軟な働き方)でも進んでいて、福祉や制度、そして社会の目が仕事をもつ女性を支えています。日本はようやく「女性活躍推進法」(2015年施行)。中小も女性活躍は努力目標です。「女子は使えない」を返上し、安心して働ける道を探るならアイスランドをみることです。(会田和子)

